

Cosimo Cascione を偲んで～〔翻訳〕 Carla Masi Doria による追悼スピーチ

五十君麻里子

多くの同僚に愛されたナポリ“フェデリコ II”大学教授の Cosimo Cascione が 2024 年 12 月 14 日、55 歳の若さで永眠した¹。10ヶ月間生死を彷徨った末の最期であった²。本稿においては、2025 年 6 月 5 日～6 日に開催されたイタリアローマ法協会（AIDR）第 2 回年次研究集会における、まさに盟友であった Carla Masi Doria³の開会挨拶の中から、Cosimo Cascione の追悼部分を抜粋して紹介す

¹ すでに多くの追悼文が発表されている。L. Labruna, *Refole. Cosimo Cascione acuta intelligenza del diritto romano*, in *La Repubblica di Napoli* del 23 dicembre 2024; L. Capogrossi Colognesi, *Una perdita insanabile*, in *BIDR*. 14 (2024) 321-327; A. Saccoccio, *Editoriale. Roma e America per Cosimo Cascione*, in *Roma e America. Diritto romano comune* 45 (2024) 1-2; R. Fiori, *Cosimo Cascione (1969-2024). Un ricordo personale*, in *Roma e America. Diritto romano comune* 45 (2024) 463-465; F. Lamberti, *Editoriale*, in *Quaderni Lupiensi* 14 (2024) vii-ix; F.A. Costabile, *Cosimo Cascione (Napoli 26.4.1969 - 14.12.2024). Vocazione allo studio e passione per l'erudizione e l'«Antiquaria» nel Diritto Romano. Un ricordo personale*, in *Minima Epigraphica et Papyrologica* 27 fasc. 29 (2024) 292-298; *Premessa*, in *Diritto romano e postmodernità. Conversazioni nel XL del primo convegno di Copanello. Maierato (Vibo Valentia), 20-22 ottobre 2022. Atti del convegno*, a cura di I. Piro, P. Marra (Soveria Mannelli 2024) 13.

² 彼の愛弟子の一人 Valeria di Nisio は「彼がいなくてもなんとかやっていけるように、私たちに練習期間を与えてくれたのだと思う」と語っている。

³ ナポリ“フェデリコ II”大学ローマ法担当教授。2025 年 1 月より、同大学 800 年の歴史上、女性として初めて法学部長に就任。

る⁴。とりわけ Corbino 先生のメールが引用されている部分は、日本のローマ法研究者も共感する所であろう。

一周忌に合わせた 2025 年 12 月 15 日の追悼シンポジウムには、世界中から会場に入り切れないほどの関係者が集まり、彼の人徳が偲ばれることであった。末尾にそのプログラムを付し、Cosimo の多彩な業績を顧みる一助としたい。

・・・前略・以下翻訳・・・

今日からの二日間は、AIDR⁵理事長としては私の前任にあたるオリヴィエロ・ディリベルト⁶先生にご提案いただき、昨年 12 月、あまりにも早く帰らぬ人となってしまった、私たちのとても大切な、無二にして無比の同僚であり友人のコジモ・カッショーネへの追悼に捧げられます。卓越した知識と教養、突出した知的好奇心、洗練された皮肉をも持ち合わせた人物でした。彼の学問的度量と研究の価値は、Boulvert 賞の一環として授与された憲法裁判所特別賞や Lincei 学士院の Feltrinelli 賞といった権威ある賞を受賞したことで、よく知られています。

この数ヶ月間、アカデミックな場であっても、友人同士の集まりであっても、どんな機会にも、彼を、尊敬とも言える大きな愛情を

⁴ 注は全て訳者による。

⁵ Associazione Italiana di Diritto Romano
<https://associazionedirittoromano.it/associazione/>

⁶ Oliviero Diliberto。ローマ“ラ・サピエンツァ”大学ローマ法担当教授・前法学部長（2025 年 10 月 31 日まで）。イタリア共産党書記長、法務大臣なども歴任し、政界でも活躍。

もって思い出さない時はなく、まだ彼が私たちと一緒にいるような気がしています。そう、ある意味で私たちと一緒にいてくれるのに、それでも同時に、痛切な喪失感を感じ続ける日々を送っているのです。

学問の領域に限らず、むしろとりわけ友情面でのコジモの献身は、桁外れでした。

ここで、2024 年のかの最悪の 12 月に教会で読んだ弔辞から、引用させていただきます。

「学部 1 年生のコジモに出会ったのは、彼が 18 歳になる直前の 1988 年のことです。私はすでに修了していて、CNR⁷の奨学金で研究滞在していたオーストリアから数日ナポリに帰ってきたところでした。私たちの共通の師であるラブルーナ先生⁸にご挨拶したくて、授業でお会いしようと思っていましたが、当時震災の影響で⁹、講義はいまだに映画館で行われていました。そこで、私が Delle

⁷ Consiglio Nazionale delle Ricerche

⁸ Luigi Labruna。ナポリ“フェデリコ II”大学教授・法学部長に 3 回就任。2025 年 7 月 13 日に 88 歳でお亡くなりになった。Cosimo の葬儀には杖をつきながらも豊饒として参列しておられたが、すでにこの頃自らの最後を覚悟し、Cosimo のことを *ci mancherà* ではなく *vi mancherà* とおっしゃっていたとのことである（Lucio De Giovanni 先生の 12 月 15 日の司会挨拶より）。衷心よりご冥福をお祈りする。なお、2026 年 5 月 7 日には Labruna 先生の追悼シンポジウムも予定されている。

⁹ 1980 年 11 月 23 日のイルピニア地震のこと。マグニチュード 6.9。大講義室の耐震対応が遅れ、1988 年の段階でも数千人の受講生を抱える講義では外部の施設を利用していた。

Palme¹⁰に行ったらブルーナ先生を待っていると、その学年で最も「優秀で才能ある」学生の一人、とコジモを紹介されました。コジモが優秀で才能があるというのは、本当でした。むしろ秀逸で才能に満ちていた、というべきでしょう。その後、90年代前半は、私の著書 *Civitas, operae, obsequium* の索引執筆を手伝ってくれました。その頃から私たちの関係は、深く強い連帯や誠実な真の友情に基づくものとなり、毎日いつも話し合うなかで気脈の通じた魔法のようなものとなって、途切れることはありませんでした。

唯一無二、傑出した人でした。複雑であると同時に単純。情熱的で過激ながら、控えめで優しくもある。とりわけ善良な人間、広い心をもつ善良かつ繊細な人でした。他人の悩みを自分のこととする人で、文字通りの意味で「同情」して共感し、いつも心を動かされていました。家族を深く愛した、愛の人でもありました。少しも物惜しみせず、他者に与えるために自らのものをいつでも捨て去るつもりでただけでなく、自分自身を提供するにも惜しみなく、どんなときも皆を助け、研究の仕事やアイデアについて、常に議論に付き合ってくれました。彼の批判は時に辛辣でしたが、ひたすら建設的で前向きでした。

流れるような筆運びに、素早い思考、ほとぼしるアイロニーと鮮烈な想像力。宴席の夕べを盛り上げたり、または少し重い状況を軽くしてくれた、彼の語るエピソードで、どれほど大笑いし、楽しんだことでしょう。多くの友人や同僚が、いまや世界中で話題にっていて、リクエストも後を絶ちません。Sachenrecht・Diderrissen¹¹や la

¹⁰ Chiaia 地区の劇場。当時はここで講義が実施されていた。

¹¹ ゲッティンゲン大学に留学した当初、民法の大家 Uwe Diederichsen

cravatta in Québec¹²とえば、ご参加の皆さんの多くはご理解くださることでしょう。

父親となることはありませんでしたが、「子ども」は沢山いました。とりわけ多くの彼の学生たちは、彼の独特の語り口と、情熱と熱狂を伝える抜群の力量、それに、広く無限の教養で、彼のことが大好きになり、偶像化していました。彼らの一部は、私たちの仲間の一員となって卒業論文や博士論文を執筆し、今にちでは公証人、弁護士、判事、官僚として活躍していますが、彼らはコジモをロールモデルとし続け、いまだ父のような、あるいは父親以上の、不可欠の指針としています。

誰でも、彼と出会う幸運に恵まれた者に、彼は忘れられないつめ跡を残しました。そして私は、決して短くない道のりを、こんな素晴らしい人物と分かち合うことができ、本当にとっても幸福でした。」

(イタリア人には発音が難しく、"Diderrissen"と聞こえるらしい) 教授の物権法(Sachenrecht)の講義に出席したところ、ドイツ法はおろか、ドイツ語もまだよくわからない中、条文を読み上げるよう指され閉口した様子を、大きな身体を小さくして臨場感いっぱい語ったエピソード。

¹² ケベックでの大使も出席するフォーマルなディナーで、白く光るソースに何故か興味を惹かれ、小さじで口に運んだ所、その刺激の強い味に耐えられず、ナプキンと勘違いして自分のネクタイで口を拭いてしまった、失敗エピソード。Carla は Cosimo の対面の席で彼の顔色が変わるのを目撃していたらしい。

彼の没後1年にあたり、きたる12月15日にここナポリで、彼の学問的軌跡と人物像、そして彼自身に一日を捧げます¹³。みなさま、ぜひおいでください。

何人かの先生方が、今回の我々の研究集会で報告できないことを謝罪するお手紙をお寄せくださいました。中でも、お二人の大先輩（maiores）のお名前を挙げさせていただきます。Bullettino dell'Istituto di diritto romano にコジモとの素晴らしい思い出を綴られたカボグロッシ先生¹⁴と、これからご紹介するメッセージを、ラブルーナ先生（残念ながら本日はご欠席ですが）と私にメールで送ってくださったサンドロ・コルビーノ先生¹⁵です。

「親愛なるジーノとカーラへ
ご存知のように、私の意思とは無関係な理由が、来週の木曜日と金曜日に開催される、極めて興味深い内容が予告されており、かつ我々の最愛のコジモを追悼する研究集会に、みなさまとともに出席することを、阻んでいます。

お許しいただければ、この追悼に、私も積極的に参加したいと存じます。コジモは、彼の博識、強い責任感、そして、どんな疲れも軽減し人を巻き込む、そのあけっぴろげな笑顔を思い出せば、いつも

¹³ プログラム後掲

¹⁴ Luigi Capogrossi Colognesi。ローマ“ラ・サピエンツァ”大学名誉教授。2010年からLincei 学士院会員。

¹⁵ Alessandro Corbino。メッシーナ大学・カタンザーロ大学・カターニア大学のローマ法担当教授を歴任。カタンザーロ大では1983-1995年に法学部長も勤める。

我々と共にあります。遺した業績と偉大な人間性と共に、彼は生きているのです。彼を師とした方々や日常の仕事を共にした皆様にとってだけではなく、単に、彼の助言や、常に思いやりと情愛のこもった友情に接する機会に恵まれたに過ぎない、私のような者にとっても、彼は生きています。

ご盛会を祈ります。参加者全員に心よりのご挨拶を込めて。

サンドロ・コルビーノ」

コジモは、多くの他の法制度や法の側面に関すると同様、今からの数日間のテーマである「刑罰」にも、特筆すべき紙幅を捧げています。ここでは、1999年に出版された *Tresviri capitales. Storia di una magistratura minore* と題した彼の初めてのモノグラフを思い起こしていただきたいと思います。2001年10月の第5回 Premio Romanistico Internazionale Gérard Boulvert において、憲法裁判所特別賞を受賞したこの研究の顕著な点のひとつには、同書が、tresviri の犯罪抑制の職務と、牢獄や死刑についての探究に充てられていることが、挙げられるでしょう。他にも *Lege agere e poena capitis: qualche spunto ricostruttivo* といった多くの作品を想起できるのですが、彼の研究心を掻き立てて止まなかったテーマについて、価値ある業績に言及しそびれるリスクを犯してしまいそうなので、止めておきましょう。

それでは、彼の思い出とともに、我が協会の第2回目の研究集会を開催いたします。著名な報告者のみなさまには、学術報告のために、ここにおいでいただいたことに深く感謝しています。みなさまのお時間を奪ってしまうこととならないよう、早速始めましょう。どうも有難うございました。



Centro Arancio Italia



Consorzio Orientamento



UNIVERSITÀ DEGLI STUDI DI NAPOLI FEDERICO II
DIPARTIMENTO DI GIURISPRUDENZA

Dies Cosimo dicata

15 dicembre 2025

Aula Pessina

ore 10.00: *Saluti istituzionali*

Matteo Lorito, Rettore dell'Università degli Studi di Napoli Federico II

Carla Masi Doria, Direttore del Dipartimento di Giurisprudenza, Presidente del Consorzio Interuniversitario Gérard Bouveret

Giovanna D. Merola, Direttore del Centro interdipartimentale Vincenzo Arancio-Ruiz

ore 10.30: *Traiettorie scientifiche*

Presiede Lucio De Giovanni

Cosimo e l'ars oratoria

Luigi Capogrossi Colognesi

Scritti di diritto civile

Elena Sánchez Jordán

'Tresviri capitales' e altri scritti di diritto pubblico

Bernardo Santalucia

Pausa caffè

Presiede Francesca Reduzzi

'Consensus'

Roberto Fiori, Johannes Platschek

'Romolo sacer' e XII Tavole

Francesco Lucrezi, Floriana Cursi

Diritto romano e fascismo

Gianni Santucci

Donne e famiglia

Patrizia Giunti, Francesca Lamberti, Isabella Piro

ore 14.00 Lunch

ore 15.00: *Altri percorsi, ricordi e testimonianze*

Presiede Carla Masi Doria

Una vita per l'Università

Guido Trombetti, Antonio Punzi

Index

Valeria Di Nisio, Paola Santini, Fabiana Tuccillo

Ricerche epigrafiche

Giuseppe Camodeca, Jakub Urbanik

Carl Schmitt tra diritto internazionale e diritto costituzionale

Pasquale De Sena, Alberto Lucarelli

Moot Court Competition

Jean-François Gerkens

I Codici

Maurizio Santise, Fabio Zunica

Göttingen e Berlin

José Luis Linares, Martin Avenarius, Cosima Möller

America Latina

Adriana García Netto, Patricio Carvajal

Interventi

Alessandro Adamo

Marco Auciello

Raffaele Basile

Annarosa Gallo

Salvatore Marino

Natale Rampazzo

Osvaldo Sacchi

...

Corso Umberto I n. 40 – Napoli

Si prega, per motivi organizzativi, di comunicare la propria partecipazione all'indirizzo diescosimodicata@gmail.com